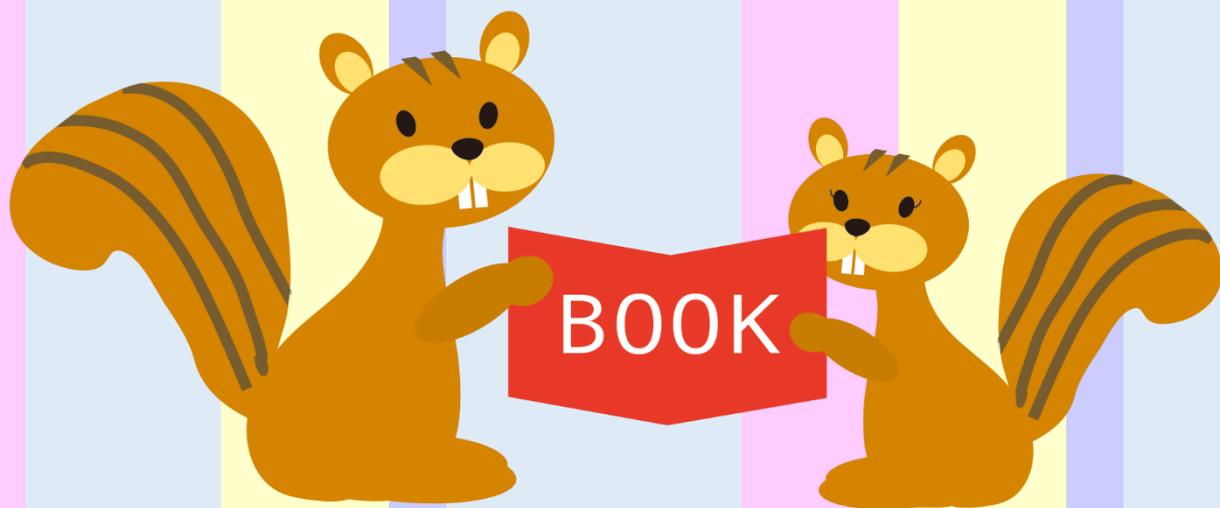


うちどく
家読ブックリスト

うちリス



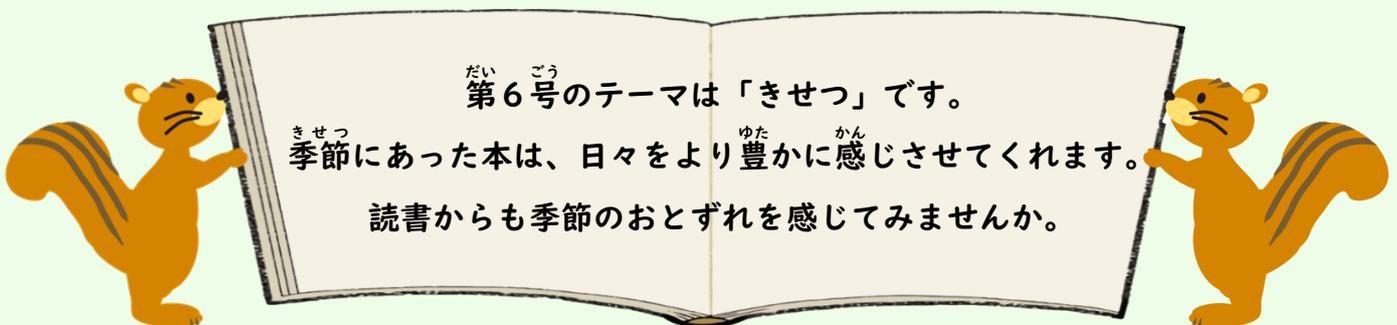
その6 きせつ

うちどくのブックリスト、^{りやく}略して「うちリス」です。

「うちどく（家読）」は、^{どくしょ}読書を通じてコミュニケーションを^{はか}図り、^{かぞく}家族の^{ふか}きずなを^{ふか}深めることを^{もくてき}目的にはじまった^{かつどう}活動です。

「うちどく」には^{とくべつ}特別なルールはありません。^{たいせつ}大切なのは、^{みぢか}家族や^{ひと}身近な人と^{ほん}本を^{たの}楽しむことです。ご^{かてい}家庭にあった^{とく}スタイルで^{とく}取り組んでみましょう。

^{たと}例えば、「うちどく」の^ひ日を^き決めたり、^{おな}同じ本を^よまわし^よ読むなど、^か家族みんなで^きルールを決めて^{はじ}始めてみてはどうでしょう。同じ本を^かみんなで^は読めば^{かい}会話も^{はず}いっそう^は弾みます。また、^{たが}お互いに本を^{すす}めあってもいいでしょう。^{ほん}家族そろって^や本屋^{さん}で^{えら}本を選^ぶぶなど、^そどんな本を^よ読むか^そ相談^しあう^ことも^もコミュニケーションが^う生まれます。



【読書の目安】 ★ ^{ようじ}幼児～ ★★ ^{しょうがっこうていがくねん}小学校低学年～ ★★★★★ ^{ちゅうこう}小学校中・高学年～

【本の場所】本には、^{じゅうしょ}住所となるシールがついています。→ **シモ**

本をさがす時は、このシールをめじるしにしてください。

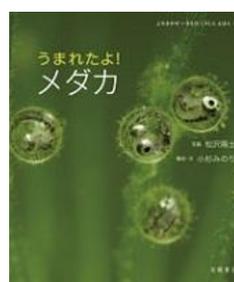
^{こんごう}今号の作成：^{さくせい}荒川区立南千住図書館・^{あらかわくりつみなみせんじゅとしょかん}尾久図書館・^{おぐ}町屋図書館・^{まちや}日暮里図書館

はる 春



『はなをくくん』
ルース・クラウス／ぶん
マーク・シー蒙特／え
きじまはじめ／やく
福音館書店 ★ **シモ**

ゆきのなかで どうぶつたちが ねむっています。
くくん。なにか においでもするのでしょうか？
はなを くくんさせます。みんな めをさまして
においの するほうへ かけていきます。すると…。
はるの はじまりを かんじる おはなしです。



『うまれたよ！メダカ』
まつざわようじ
松沢陽士／写真
こすぎ
小杉みのり／構成・文
岩崎書店 ★

48.7

はるになると メダカのメスは おがわやたんぼに
たまごをうみます。ちいさなつぶつぶから メダカの
あかちゃんが うまれました！ たんぼのまわりで
せいちょうしていく メダカのあかちゃん。そのすが
たが しゃしんで しょうかいされています。





『ぼくとがっこう』
たにかわしゆんたるう
谷川俊太郎／文
はたこうしろう／絵
アリス館 ★★

ハタ

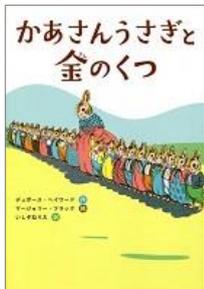
きみの がっこうは どんながっこうですか？
きみは がっこうで どうすごしていますか？
ともだちができたり、けんかしたり。がっこうが
たのしいひも、いきたくないひも あるかもしれま
せん。
がっこうで すごす いちにち いちにちが、き
みを すこしずつ かえていきます。



『ひなにんぎょうが
できるまで』
ひさかたチャイルド
★★

38

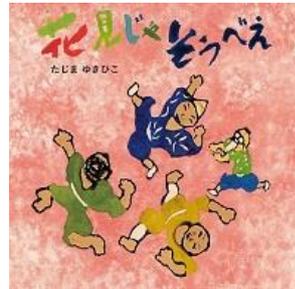
ひなにんぎょうの できるまでが しゃしんで
しょうかいされています。
せんようのどうぐをつかい、きものやかおが だん
だんとできていくようすに みいってしまいます。
ひとつひとつに いみのある ひなにんぎょうた
ち。じっくりみて よんで いろいろなはっけんをし
てみましょう。



『かあさんうさぎと
金のくつ』
デュボース・ヘイワード／作
マージョリー・フラック／絵
いしぞねりえ／訳
徳間書店 ★★

ハイ

春のおとずれをいわうイースター。せかいじゅう
の子どもたちにたまごをとどける「イースターうさ
ぎ」がえらばれる日、かあさんうさぎのフワフワは
二十一ぴきのこうさぎをつれて、お城へけんぶつに
でかけました。じつはフワフワは子どものころから
イースターうさぎになりたかったのです。



『花見じゃ そうべえ』
たじまゆきひこ／作
童心社 ★★★★★

タシ

かるわざしの そうべえ、^は齒ぬきしの しかい、
やぶいしゃの ちくあんは しっぱい ばかり。や
まぶしの ふっかいは 三にんに きびしいしゆぎ
ようをさせようと 春の花がさきはじめた ^{よしの}吉野の
お山へ つれていくことにしました。『じごくのそ
うべえ』シリーズ四にんの、春のおはなしです。



『巣箱のなかで』
^{すずき}
鈴木まもる／作・絵
あかね書房 ★★★★★

48.8

シジュウカラのおや鳥は ^{すばこ}ちいさな巣箱のなかを
いごちよくととのえて、ヒナたちを ^{そだて}そだてていま
す。
^{さくしや}作者は、うらがわに板をつけない巣箱を ガラスま
どにとりつけて ^{いた}なかをのぞけるようにしました。お
や鳥とヒナたちは ^いどのようにすごしているのでしょ
うか。さあ、のぞいてみましょう。



『ひみつの校庭』
^{よしの まりこ}
吉野万理子／作
^{みや おかずたか}
宮尾和孝／絵
学研プラス (Gakken)

★★★★

ヨシ

^{ようた}葉太の小学校では入学すると、ひとりずつ決^きめられ
た校庭^{こうてい}の木を^{かんさつ}観察するノートをもらいます。5年生の
葉太はノートが2冊目になったごほうびに、校長先生
から「ひみつの校庭」へ入ることのできる木戸^{きど}のカギ
をもらいました。木戸^おの向こうはどうなっているの
でしょうか。

なつ 夏



『うかぶかな?
しずむかな?』
かわむらやすふみ
川村康文／文
えんどうひろし
遠藤 宏／写真

岩崎書店 ★ **40**

ボールやミニカー、おみずのなかにいれてみたら、うかぶかな? しずむかな? ボールはうかんだよ。ミニカーはしずんじやった。じゃあ、ねんどは? ねんどのかたちをかえたら、どうなる? やさいやおもちゃも、いれちゃえいれちゃえ。どんどんじっけんしてみよう!



『ターちゃん と ペリカン』
ドン・フリーマン／作
さいおんじさちこ
西園寺祥子／訳
ほるぷ出版 ★

フリ

ターちゃんのおうちは、まいとしなつやすみに、すなはまでキャンプをします。「あのペリカン、まだいるかなあ」ターちゃんは、きよねんさよならしたペリカンにあいにいきます。いっしょにさかなつりをしていると、ターちゃんのながぐつがながされてしまい…。



『なんだこれは?』
よこやまかんた
横山寛多／著
偕成社 ★★

48.6

なつになると、いろんなむしたちがでてきます。そとにでて、めでみて、みみで おとをきいて、はなでにおいをかいでみよう。はっぱのうら、かれたきのなか、みちのとちゅう、まわりをよーくかんさつすると…。「なんだこれは?」とおもうもの、みつかるかな?



『どれみふあけろけろ』
ひがしくんべい
東君平／作
あかね書房 ★★

ヒカ

たっくんは、およぎが にがてです。がっこうのプールのひは げんきが ありません。「かえるは、およげて いいなあ。」と、つぶやいていると、それをきいた かえるが およぎを おしえてくれることになりました。どんな べんきょうを するのかな?



『夜を あるく』
マリー・ドルレアン／作
よしいかずみ／訳
BL出版 ★★

トル

なつの夜、ぼくたちはねむっている町をあしおとをたてずにあるいていく。おおきなホテルをすぎで、町はずれのいえをとおり、山のふもとについて、そして山道をすすんでいく。しぜんのおつくしさを、すぐそばに感じる事ができる本です。



『山のうらがわの冒険』
みおちづる／作
ひろせげん
広瀬弦／絵
あかね書房 ★★★★★

ミオ

夏休みに、山の中のおばあちゃんの家に行ったヒロキは、山のうらに住む赤いシャツを着た変な男の子に出会った。山のうらに行ったら、もどってこれないことがあると聞いていたが、ぼうしを取ったカラスを追いかけけているうちに、山のうらに入ってしまった。



『水族館—いきものひとのいちにち』
ほりかわあやこ／さく
福音館書店 ★★★★★

48.1

川や海、水辺のいきものたちに出会える水族館。
その裏側では、いきものたちがくらしやすいように、水族館に来たお客さんによろこんでもらえるように、たくさんの方がはたらいています。どんな1日をすごしているのか、見てみましょう。



『ポリッセーナの冒険』
ビアンカ・ピッツオルノ／作
クエンティン・ブレイク／絵
ながのとおり
長野 徹／訳
徳間書店 ★★★★★

ヒツ

空想好きなポリッセーナは、修道院にすてられていた、もらい子だったということを知ります。おどろいたポリッセーナは、家をとび出し、ほんとうの両親をさがす旅に出ます。元気な主人公がまきおこす、山あり谷ありの胸がおどる物語です。



あき秋



『びっくりまつぼっくり』
ただたえこ／ぶん
ほりかわりまこ／え
福音館書店 ★

ホリ

まつぼっくり みつけた。びっくりかえすとはなびらみたい。
ついているのは、まつのたね。てからおとすときくるくるまわる。
あめにぬれると、ちいさくなって、びっしょりしょんぼり まつぼっくり。
ポケットにいれたまま、おうちにかえって、あさ おきたら どうなった？



『ヒッコリーのきのみ』
こうまよしこ 香山美子／作 かきもとこうぞう 柿本幸造／絵
ひさかたチャイルド ★

カキ

りすのバビーは、もりで たくさんの ヒッコリーのきのみを ひろいました。
ふゆに たべるぶんは、しるしをつけて つちのなかに かくしておきます。でも、ぜんぶを みつけることは できません。みつけれなかった きのみは、どうなるでしょうか。
おかあさんが、ヒッコリーのきと りすの やくそくをおしえてくれます。



『おばあちゃんのおはぎ』
のむら 野村たかあき／作・絵
佼成出版社 ★★

ノム

あきの おひがんになりました。きりちゃんとおばあちゃんが、ごせんぞさまに おそなえをする おはぎをつくっていると、かぞくみんなも てつだいにきました。
なくなったおじいちゃんに、たべてもらえるかな？ おはぎのつくりかたも のっています。おうちでつくってみませんか。



『どんぐりと山ねこ』
みやざわけんじ 宮沢賢治／作 たかばたけじゅん 高島純／絵
岩崎書店 ★★

ミヤ

いちろう 一郎のところへ山ねこから「めんどなさいばんしませす」と書かれたはがきがとどきました。森へいくと、黄金いろのどんぐりたちがやかましく、「だれがいちばんえらいか」と言い合っています。山ねこも手におえないさいばんを、一郎はどのようにかたづけたのでしょうか。



『ごちそうの木 タンザニアのおかしばなし』
 ジョン・キラカ／作
 さくまゆみこ／訳
 西村書店 ★★ **コチ**

むかしむかし、おなかがぺこぺこのどうぶつたちがいました。

大地には1本、名まえをとなえると実をおとす、ふしぎな木が立っています。

カメに木の名まえをおしえてもらいますが、みんなすぐにわすれてしまいます。

「ントウングル・メンゲニエ」それが木の名まえでした。実をおとすことはできるのでしょうか。



『生き物が教えてくれる季節のおとずれ 秋』
 かめだりゆうきち
 亀田龍吉／写真・文
 汐文社 ★★★★★

46

みなさんはどんなときに季節のうつり変わりを感
 じますか？ 夏が終わると虫の声が聞こえてきたり、秋が深まると葉っぱが黄色や赤に色づいてきたりしますね。日本のくらしに古くから伝わる「こよみ」と、生き物がわたしたちに教えてくれる季節の変化を、この本で学んでみませんか。



『りんごって、どんなくだもの？』
 やすだまもる
 安田守／著
 岩崎書店 ★★★★★ **61**

秋になるとスーパーにならぶ、身近なくだもの、りんご。

明治時代にヨーロッパからアメリカをへて、日本にやってきました。この約150年の間に、たくさんの種類のりんごがふえ、いろいろな名前がつけられました。

知れば知るほどおくが深い、りんごの世界をのぞいてみましょう。



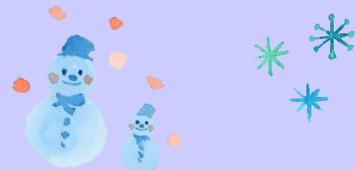
『たぶんみんなは知らないこと』
 ふくだたかひろ
 福田隆浩／著 しんやゆう子／画
 講談社 ★★★★★

70

重度の知的障がいのある五年生の女の子、すず。言葉話すことはできないけれど、いろんなことを考え、頭のなかでたくさんのおしゃべりをしています。すずは、お兄ちゃん、同級生、先生、保護者たちにやさしく見守られ、少しずつ成長していきます。心がふれあう温かさを感じられる物語です。



ふゆ
冬



『しんせつなともだち』
 ふあんいちゆん
 方軼羣／作 きみしまひさこ
 君島久子／訳
 おらやまともよし
 村山知義／画
 福音館書店 ★ **ムラ**

ふゆになり、たべものをさがしにでかけた こうさぎは、かぶをふたつ つけました。ひとつはたべて、もうひとつは ろばにあげようと ろばのいえに おいてきました。そのころ ろばもたべものをさがしに でかけており、さつまいもをもっていえにかえると、そこには かぶが…。しんせつがめぐる、あたたかいえほんです。



『ゆきのようせい』
 まつだ なこ
 松田奈那子／作
 いしくろまこと
 石黒誠／監修
 岩崎書店 ★ **マツ**

「もうすぐふゆがくるよー！」ゆきおしは、ふゆのおとずれを、もりのいきものたちに しらせようとします。でも、もうほかのゆきおしたちがきていて、みんなふゆがくるのを していました。おちこんだゆきおしは、まちへとんでいきますが…。



『ふゆとみずのまほう
こおり』
かたひらたかし
片平孝／写真・文
ポプラ社 ★

45.1

こおりは、みずがひえて かたまつたものです。ふゆになると、いけやみずうみ、たきやどうくつにあるみずが こおりはじめます。そのかたちもおおきさも、ばしょやさむさによって、いろいろちがいます。まるで、ふゆがみずにまほうをかけたようです。



『ホカリさんと ふゆのおくりもの』
はせがわさとみ／作
かわかみたかこ／絵
文溪堂 ★★

ハセ

ホカリさんは、ちいさなまちのゆうびんやさん。さむいひにうたう“ほかほかおてがみのうた”をくちずさみながら、あかいじてんしゃで てがみのはいたつにでかけます。あるひ、ねずみのこに はいたつをたのまれますが…。すこしふしぎな3つものものがたりです。



『吹雪の中の列車』
マト・ロヴラック／作
やまもといくこ
山本郁子／訳
ささめやゆき／絵
岩波書店 ★★★★★

B 07

リューバン、ペーロ、ドラガという名前の3人の子どもたち。あることがきっかけで3人はけんかをして、ロもきかなくなっていた。時がたち、3人をふくむ4年生30人は「子ども同盟」を結成し、日帰り旅行に出かけることに。しかし、帰りの列車が吹雪のせいで動かない！ さあ、どうする？



『こおりのくにの
シロクマおやこ』
まえかわたかゆき
前川貴行／写真・文
ポプラ社 ★★

48.9

カナダのハドソンわんにくらす シロクマのおやこ。えさになるアザラシをおって、なんぜんキロもながいたびをします。子グマは きけんからにげたり、きょうだいげんかをしながら、おかあさんのおおきなあいにつつまれて、すこしずつ おおきくなっていきます。



『チュンチエ
ー中国のおしょうがつー』
ユイ・リーチョン／文
チュ・チョンリャン／絵
なかゆみこ
中由美子／訳
光村教育図書 ★★★★★

チユ

チュンチエ きゆうれき
「春節」は旧暦の中国のお正月です。みんなが楽しみにしているのは、大みそかの夜からの家族のだんらんです。ふるさとにいる家族といっしょにすごすのが何より大切な中国の人たち。同じおはなしが中国語で書かれている本もあります。



『夜ふけに読みたい はじまりのイソップ物語』
たのさき
田野崎アンドレーア 嵐／編訳
わにももこ
和爾桃子／編訳
アーサー・ラッカム／挿絵
平凡社 ★★★★★

99

ひょうし えが
表紙に描かれている『北風と太陽』をはじめ、139ものおはなしが載っていて、各話ほぼ1ページに短くまとまっているので、どこからでも読むことができます。昔イソップを読んだことのあるおとなの人といっしょに読んでみるのも楽しいですね。ちがった感想が出てくるかもしれません。

おすすめの本ランキング！

うちリス 6号にのっている本のなかで、
おもしろかったのはどの本ですか？
じぶんの好きな本を順番に書いて、
おうちの人や友達と、くらべてみよう！



ほん だいいめい
本の題名 _____

おすすめしたいところ



ほん だいいめい
本の題名 _____

おすすめしたいところ



ほん だいいめい
本の題名 _____

おすすめしたいところ